

運 営 規 程

インナーボイス指定居宅介護・指定重度訪問介護

リバービレッジ株式会社

目 次

第1条（事業の目的）	3
第2条（運営の方針）	3
第3条（事業の運営）	4
第4条（事業所の名称等）	4
第5条（職員の職種、員数及び職務の内容）	4
第6条（営業日及び営業時間等）	4
第7条（指定居宅介護等を提供する主たる対象者）	5
第8条（指定居宅介護等の内容）	5
第9条（利用者及び障害児の保護者から受領する費用の額等）	6
第10条（利用者負担額等に係る管理）	6
第11条（通常の事業の実施地域）	7
第12条（緊急時及び事故発生時等における対応方法）	7
第13条（苦情解決）	7
第14条（個人情報の保護）	7
第15条（虐待防止に関する事項）	8
第16条（身体拘束等の禁止）	8
第17条（業務継続計画の策定等）	8
第18条（感染症の予防及びまん延の防止のための措置）	9
第19条（その他運営に関する重要事項）	9

附 則

第1条（施行期日）	9
-----------	---

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく

インナーボイス（居宅介護、重度訪問介護）運営規程

（事業の目的）

第1条 リバービレッジ株式会社（以下「事業者」という。）が設置するインナーボイス（以下「事業所」という。）において実施する指定障害福祉サービス事業の居宅介護（以下「指定居宅介護」という。）、重度訪問介護（以下「指定重度訪問介護」という。）の適正な運営を確保するために必要な人員及び運営管理に関する事項を定め、指定居宅介護、指定重度訪問介護及び指定同行援護（以下「指定居宅介護等」という。）の円滑な運営管理を図るとともに、利用者、障害児及び障害児の保護者（以下「利用者等」という。）の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者等の立場に立った指定居宅介護等の提供を確保することを目的とする。

（運営の方針）

- 第2条 事業所は、利用者等が居宅において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者等の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、外出時における移動中の介護並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助を適切かつ効果的に行うものとする。
- 2 指定居宅介護等の実施に当たっては、利用者等の必要な時に必要な指定居宅介護等の提供ができるよう努めるものとする。
 - 3 指定居宅介護等の実施に当たっては、地域との結び付きを重視し、利用者等が居住する市町村、他の指定障害福祉サービス事業者、指定一般相談支援事業者、指定特定相談支援事業者、指定障害者支援施設その他福祉サービス又は保健医療サービスを提供する者等（以下「障害福祉サービス事業者等」という。）との密接な連携に努めるものとする。
 - 4 前3項のほか、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「法」という。）及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準（平成18年厚生労働省令第171号。以下「基準省令」という。）に定める内容のほか関係法令等を遵守し、指定居宅介護等を実施するものとする。

（事業の運営）

第3条 指定居宅介護等の提供に当たっては、事業所の従業者によってのみ行うものとし、第三者への委託は行わないものとする。

(事業所の名称等)

第4条 指定居宅介護等を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- (1) 名 称 インナーボイス
- (2) 所在地 堺市西区浜寺石津町西1-2-4-103

(職員の職種、員数及び職務の内容)

第5条 事業所における職員の職種、員数及び職務の内容は、次のとおりとする。

- (1) 管理者 1名(常勤職員)
管理者は、職員及び業務の管理を一元的に行うとともに、法令等において規定されている指定居宅介護等の実施に関し、事業所の職員に対し遵守させるため必要な指揮命令を行う。
- (2) サービス提供責任者 1名(うち1名以上は常勤職員)
サービス提供責任者は、次の業務を行う。
 - ア. 利用者等の日常生活全般の状況及び希望等を踏まえて、具体的なサービスの内容等(以下、提供するサービスが指定居宅介護である場合にあっては「居宅介護計画」、指定重度訪問介護である場合にあっては「重度訪問介護計画」、指定同行援護である場合にあっては「同行援護計画」という。)を記載した書面を作成し、利用者等及びその家族にその内容を説明するとともに、当該計画を交付する。
 - イ. 居宅介護計画、重度訪問介護計画又は同行援護計画(以下「居宅介護計画等」という。)の作成後において、当該居宅介護計画等の実施状況の把握を行い、必要に応じて当該居宅介護計画等の変更を行う。
 - ウ. 事業所に対する指定居宅介護等の利用の申込みに係る調整、従業者に対する技術指導等のサービスの内容の管理等を行う。
- (3) 従業者 3名(常勤職員 2名、非常勤職員 1名)
従業者は、居宅介護計画等に基づき指定居宅介護等の提供に当たる。

(営業日及び営業時間)

第6条 事業所の営業日及び営業時間は、次のとおりとする。

- (1) 営業日 月曜日から金曜日までとする。ただし、国民の祝日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日をいう。以下同じ。)及び8月13日から8月15日、12月31日から翌年1月3日までを除く。
- (2) 営業時間 午前9時から午後6時までとする。
- (3) サービス提供日 月曜日から土曜日までとする。ただし、国民の祝日、8月13日~8月15日、12月31日から翌年1月3日までを除く。

(4) サービス提供時間 午前9時半から午後5時半までとする。

2 前項の営業日及び営業時間のほか、電話等により24時間常時連絡が可能な体制をとる。

3 サービスの提供に当たっては、第1項(3)及び(4)の規定にかかわらず、利用者等からの相談に応ずるものとする。

(指定居宅介護等を提供する主たる対象)

第7条 指定居宅介護を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

(1) 身体障害者

(2) 知的障害者

(3) 障害児

(4) 精神障害者

(5) 難病等対象者

2 指定重度訪問介護を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

(1) 身体障害者

(2) 知的障害者

(3) 精神障害者

(4) 難病等対象者

(指定居宅介護等の内容)

第8条 事業所で行う指定居宅介護等の内容は、次のとおりとする。

(1) 居宅介護計画等の作成

(2) 身体介護に関する内容

ア. 食事の介護

イ. 排せつの介護

ウ. 衣類着脱の介護

エ. 入浴の介護

オ. 身体の清拭、洗髪

カ. 通院介助（事業所の従業者が自ら運転して実施する通院等のための乗車又は降車の介助を除く。）

キ. その他必要な身体の介護

(3) 通院等のための乗車又は降車の介助

通院等の介助について、事業所従業者が自ら運転して通院等を支援する。

(4) 家事援助に関する内容

ア. 調理

イ. 衣類の洗濯、補修

- ウ. 住居等の掃除、整理整頓
- エ. 生活必需品の買い物
- オ. 関係機関との連絡
- カ. その他必要な家事
- (5) 重度訪問介護に関する内容
 - 入浴、排せつ、及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、外出時における移動中の介護並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助
- (6) 前各号に掲げる便宜に附帯する便宜として、(2) から (5) までは附帯する、その他必要な介護、家事、相談、助言等

(利用者及び障害児の保護者から受領する費用の額等)

第9条 指定居宅介護を提供した際には、利用者及び障害児の保護者から当該指定居宅介護等に係る利用者負担額の支払を受けるものとする。

- 2 法定代理受領を行わない指定居宅介護等を提供した際は、利用者及び障害児の保護者から法第29条第3項の規定により算定された介護給付費の額の支払を受けるものとする。この場合において、提供した指定居宅介護等の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者及び障害児の保護者に対して交付するものとする。
- 3 第11条に定める通常の事業の実施地域を越えて行う事業に要する交通費については、公共交通機関等を利用した場合にあってはその実費を、事業者の自動車を使用した場合にあっては次の額を、それぞれ利用者及び障害児の保護者から徴収するものとする。
 - (1) 事業所から片道10キロメートル未満 500円
 - (2) 事業所から片道10キロメートル以上 800円
- 4 前項の費用の徴収に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者及び障害児の保護者に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者及び障害児の保護者の同意を得るものとする。
- 5 第1項から第3項までの費用の支払を受けた場合は、当該費用に係る領収証を、当該費用を支払った利用者及び障害児の保護者に対し交付するものとする。

(利用者負担額等に係る管理)

第10条 事業所は、利用者及び障害児の保護者の依頼を受けて、当該利用者等が同一の月に指定障害福祉サービス及び指定施設支援（以下「指定障害福祉サービス等」という。）を受けたときは、当該利用者等が当該同一の月に受けた指定障害福祉サービス等に要した費用（特定費用を除く。）の額から法第29条第3項の規定により算定された介護給付費又は訓練等給付費の額を控除した額を算定するものとする。
この場合において、利用者負担額等合計額が、障害者の日常生活及び社会生活を総合的

に支援するための法律施行令（平成 18 年政令第 10 号。以下「令」という。）

第 17 条に規定する負担上限月額を超えるときは、指定障害福祉サービス等の状況を確認の上、利用者負担額等合計額を市町村に報告するとともに、利用者等及び指定障害福祉サービス等を提供した指定障害福祉サービス事業者及び指定障害者支援施設に通知するものとする

（通常の事業の実施地域）

第 11 条 通常の事業の実施地域は、堺市の全域とする。

（緊急時及び事故発生時等における対応方法）

第 12 条 現に指定居宅介護等の提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合

その他必要な場合は、速やかに利用者の主治医への連絡等の必要な措置を講ずるとともに、管理者に報告するものとする。

- 2 主治医への連絡等が困難な場合には、医療機関への連絡等の必要な措置を講ずるものとする。
- 3 指定居宅介護等の提供により事故が発生したときは、直ちに利用者に係る障害福祉サービス事業者等に連絡するとともに、必要な措置を講ずるものとする。
- 4 指定居宅介護等の提供により賠償すべき事故が発生したときは、速やかに損害を賠償するものとする。

（苦情解決）

第 13 条 提供した指定居宅介護等に関する利用者等及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置するものとする。

- 2 提供した指定居宅介護等に関し、法第 10 条第 1 項の規定により市町村が、及び法第 48 条第 1 項の規定により大阪府知事又は市町村長が行う報告若しくは文書その他の物件の提出若しくは提示の命令、又は当該職員からの質問若しくは事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、並びに利用者等及びその家族からの苦情に関して市町村、大阪府知事又は市町村長が行う調査に協力するとともに、市町村、大阪府知事又は市町村長から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。
- 3 社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 83 条に規定する運営適正化委員会が同法第 85 条の規定により行う調査又はあっせんについては、可能な限り協力するものとする。

（個人情報の保護）

第 14 条 事業所は、その業務上知り得た利用者等及びその家族の個人情報については、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）その他関係法令等を遵守し、適正に

取り扱うものとする。

- 2 職員は、その業務上知り得た利用者等及びその家族の秘密を保持するものとする。
- 3 職員であった者について、職員でなくなった後においても業務上知り得た利用者等及びその家族の秘密を保持すべき旨を、職員に係る雇用契約において規定するものとする。
- 4 事業所は他の障害福祉サービス事業者等に対して、利用者等及びその家族に関する情報を提供する際は、あらかじめ文書により利用者等及びその家族の同意を得るものとする。

（虐待防止に関する事項）

第15条 事業者は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため、次に掲げる措置を講ずるものとする。

- （1）事業所における虐待の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
 - （2）事業所において、従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的実施する。
 - （3）前2号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置く。
 - （4）苦情解決体制を整備する。
- 2 前項に定めるもののほか、事業者は、成年後見制度の利用支援のため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（身体拘束等の禁止）

第16条 事業所は、サービスの提供に当たっては、利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体拘束等」という。）を行わないものとする。

- 2 前項に定めるもののほか、身体拘束等の禁止については、基準省令第35条の2の規定によるものとする。

（業務継続計画の策定等）

第17条 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講ずるものとする。

- 2 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。
- 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を

行うものとする。

（感染症の予防及びまん延の防止のための措置）

第18条 事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講ずるものとする。

- （1）事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
- （2）事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
- （3）事業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的に実施する。

（その他運営に関する重要事項）

第19条 事業所は、職員の資質の向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、また、業務の執行体制についても検証、整備するものとする。

- （1）採用時研修 採用後1月以内
- （2）継続研修 年2回
- 2 事業所は、職員、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備するものとする。
- 3 事業所は、利用者等に対する指定居宅介護等の提供に関する諸記録を整備し、当該指定居宅介護等を提供した日から5年間保存するものとする。
- 4 事業所は、指定居宅介護等の利用について市町村又は一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者が行う連絡調整に、できる限り協力するものとする。
- 5 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は事業者と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附 則

（施行期日）

第1条 この規則は、令和7年8月1日から施行する。

（改定）

第2条 この規則は、令和7年8月5日に改定し施行する。

1（指定居宅介護等の内容）第8条 改定

追加 通院等のための乗車又は降車の介助